

# ResponseCard AnyWhere Display



製品概要.....	1
技術要件.....	2
セットアップ (3分).....	3
ResponseCard AnyWhere Display の接続.....	4
テレビの適切なビデオモードの判断.....	6
ResponseCard AnyWhere と ResponseCard Display の通信の有効化.....	8
無線周波数チャンネルの設定.....	11
ディスプレイユニットのチャンネルの設定.....	11
ResponseCard AnyWhere のチャンネルの設定.....	12
RF レスポンス・カードのチャンネルの設定.....	14
ディスプレイユニット ID の設定.....	15
ディスプレイユニットのユニット ID の設定.....	15
ResponseCard AnyWhere でのディスプレイユニット の数の設定.....	17
参加者のポーリング.....	21
タイマ.....	22
カウントダウンタイマの使用.....	22
汎用タイマの使用.....	22
結果の表示.....	25
ResponseCard Display への質問の結果の送信.....	26
直前にポーリングした質問の表示.....	28
以前にポーリングした質問の結果の表示.....	29
安全性.....	32

# 製品概要

ResponseCard AnyWhere Display を使用すると、ResponseCard AnyWhere から収集した結果を出席者に表示することができます。この可搬性に優れた装置により、リラックスした環境で参加者の参加を保つことができます。

- 「D」isplay ボタンをクリックするだけで ResponseCard AnyWhere デバイスと通信
- S-Video またはコンポジット ビデオ出力
- 複数のグラフの選択
- 汎用タイマ
- 最大 60m 前から結果を送信可能
- 1 人のプレゼンターが最大で 10 台のディスプレイ デバイスを使用可能
- USB 接続によりファームウェアを簡単に更新
- 寸法 : 9.1cm x 14.6cm x 3.18cm
- 重量 : 357g
- 付属のケーブルセットの長さ : 135cm
- AC アダプタ定格 : 100 ~ 240V、50-60Hz、0.5A
- 最大 82 の RF チャネルをサポート

# 技術要件

- 入力電源 : 5V 0.5A (0,5A)
- S-Video またはコンポジット接続
- NTSC または PAL 互換の TV フォーマットまたはプロジェクタ システム
- ResponseCard AnyWhere (ファームウェアバージョン 1.0.2 以上)

## セットアップ (3 分)

参加者に結果を表示するには、まず、ResponseCard Display と ResponseCard AnyWhere が正しくセットアップされていることを確認する必要があります。この項では、この簡単な手順について以下の順序で説明します。

- ResponseCard AnyWhere Display の接続
- テレビの適切なビデオ モードの判断
- ResponseCard AnyWhere と ResponseCard Display の通信の有効化
- 無線周波数チャンネルの設定
- ディスプレイ ID の設定

## ResponseCard AnyWhere Display の接続

ResponseCard AnyWhere Display は S-Video またはコンポジット接続で TV やプロジェクタ システムに接続できます。

これら 2 つのオプションのうち、最高品質の出力が得られるのは **S-Video** です。TV またはプロジェクタに一度に接続できるのは、2 本のケーブルのうちの 1 本だけです。

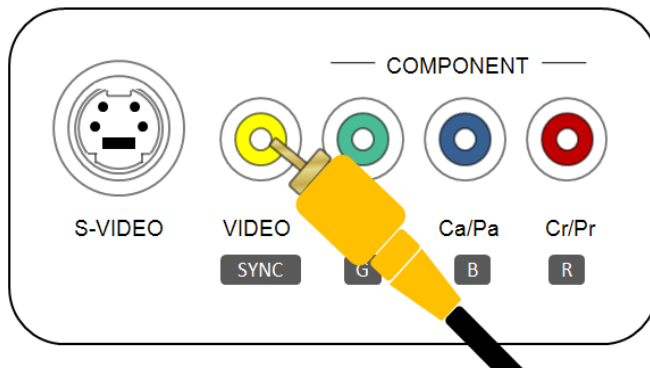
両方のケーブルを同時に接続すると、高品質の出力が得られなかったり、画面が完全に混信してしまったりする可能性があります。このような場合は、一方のケーブルを取り外して、**ResponseCard AnyWhere Display** デバイスの電源を入れ直してください。

利便性を考え、**ResponseCard Display** に接続されているケーブルは色分けされているため、簡単に識別できます。

ケーブルの色	ケーブルの用途
青	S-Video 接続
黄色	コンポジット ビデオ接続
灰色	ファームウェア更新用 USB 接続
黒	電源接続

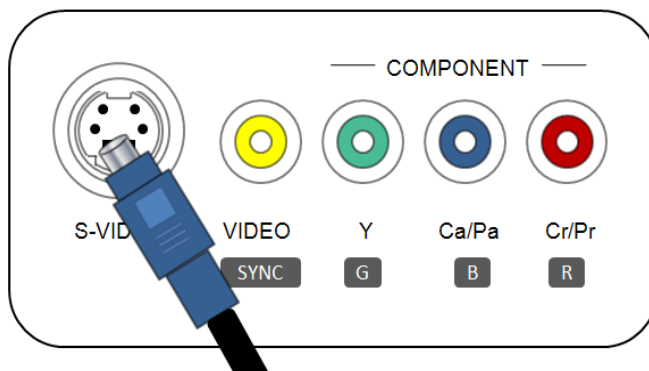
コンポジット接続

Composite Connection

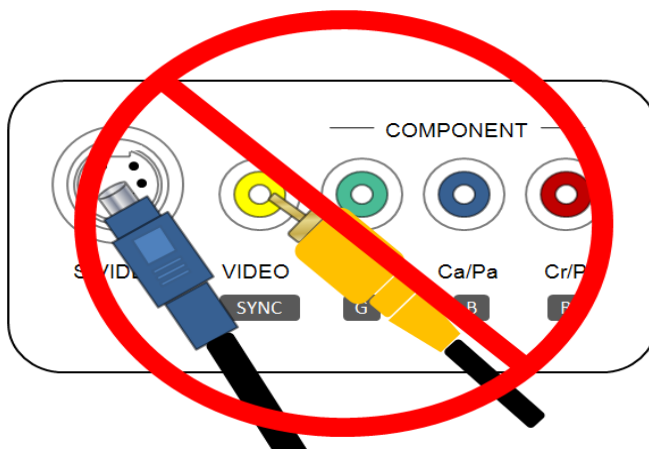


S-Video 接続

S-Video Connection



1つの接続だけを使用してください



## テレビの適切なビデオ モードの判断

米国および西半球の他の多くの国では、多くの場合、テレビは NTSC (National Television System Committee) という名前のビデオ フォーマット用に設定されています。

ヨーロッパの多くの国では、PAL (Phase Alternating Line) 用に設定されています。

ResponseCard Display の出荷時設定は NTSC です。NTSC から PAL モードに切り替えるには、以下に示す手順に従います。

### 操作手順 NTSC モードから PAL モードに切り替えるには

- 1 ResponseCard Display の **Menu** を押し続けます。
  - 2 **Menu** ボタンを押したまま、いったん電源プラグを抜いて差し込み直します。
- テレビの画面に「NTSC」と表示されます。



- 3 ResponseCard Display の下矢印を押します。テレビの画面が変わり、「PAL」と表示されます。



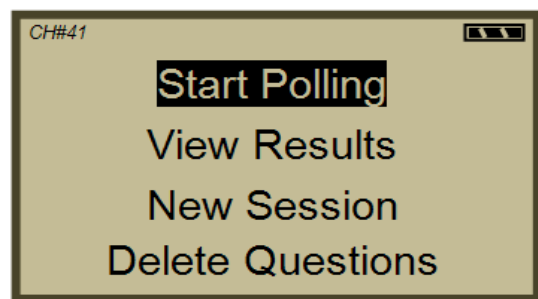
- 4 Menu を押して、NTSC モードから PAL モードへの変更を保存します。

**注記** この設定は一度行えば後は保存されています。再び NTSC モードに切り替えるには、手順 1～4 を繰り返します。ただし、手順 3 では上矢印を押して NTSC モードを選択してください。

## ResponseCard AnyWhere と ResponseCard Display の通信の有効化

### 操作手順

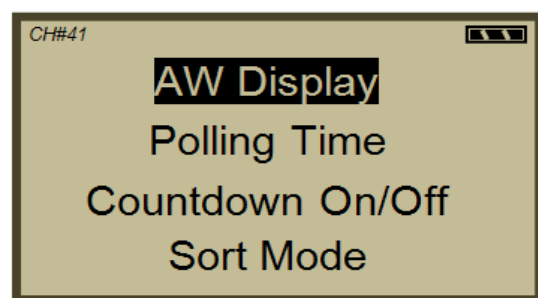
- 1 ResponseCard AnyWhere の **MENU/OK** を押してメインメニューを表示します。



- 2 下矢印を使用して [Setup] を強調表示します。



- 3 **MENU/OK** を押します。 [AW Display] が強調表示されます。



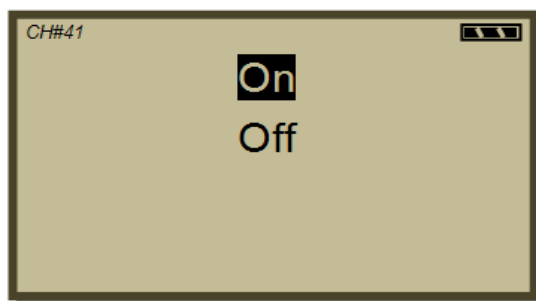
- 4 **MENU/OK** を押します。 [AW Disp On/Off] が強調表示されます。



- 5 **MENU/OK** を押します。



- 6 上矢印を使用して [On] を強調表示します。



7 **MENU/OK** を押します。

選択内容を確認するメッセージが表示され、メインメニューに戻ります。



## 無線周波数チャンネルの設定

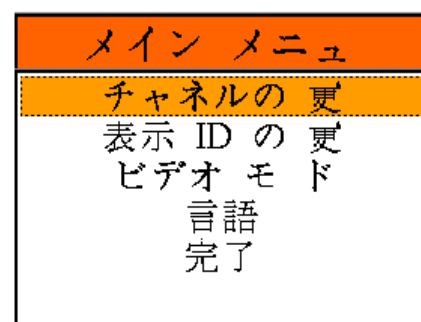
ResponseCard AnyWhere、ResponseCard Display、および RF レスpons・カードの無線周波数チャンネルはすべて同じである必要があります。デフォルトでは、すべての装置は出荷時にチャンネル 41 に設定されていますが、82 個ある RF チャンネルから選択することができます。

---

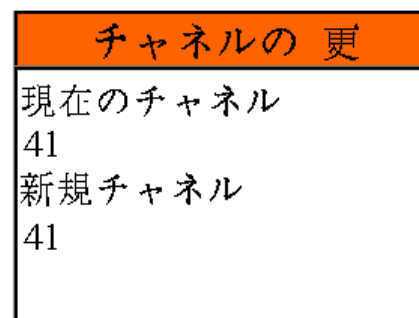
## ディスプレイ ユニットのチャンネルの設定

### 操作手順

- 1 ResponseCard Display の **Menu** を押します。      メインメニューが表示されます ...

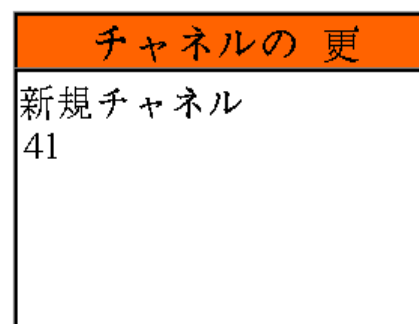


- 2 [Change Channel] が強調表示されている間にもう一度 **Menu** を押します。 現在のチャンネルと新しいチャンネルが表示されます。



- 3 **UP** を押して 82 までのチャンネルを選択するか、**DOWN** を押して 1 までのチャンネルを選択します。

- 4 目的のチャンネルを選択したら、**Menu** を押します。 新しいチャンネルを確認するメッセージが表示されます。2秒経つと、スクリーンセーバーと新しいチャンネル番号が表示されます。



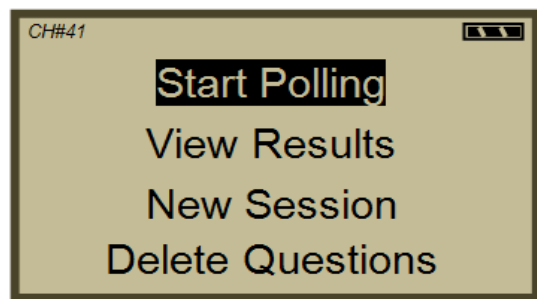

---

## ResponseCard AnyWhere のチャンネルの設定

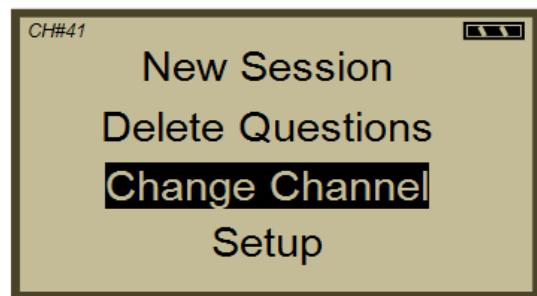
---

操作手順

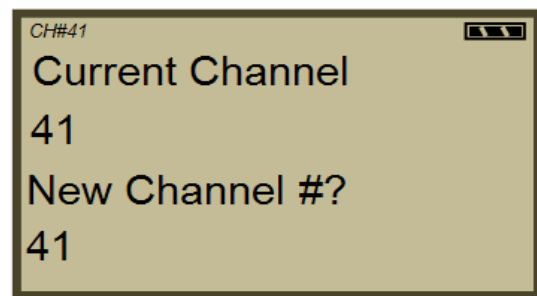
- 1 ResponseCard AnyWhere の **MENU/OK** を押します。      メインメニューが表示されます ...



- 2 下矢印を使用して [Change Channel] を強調表示します。



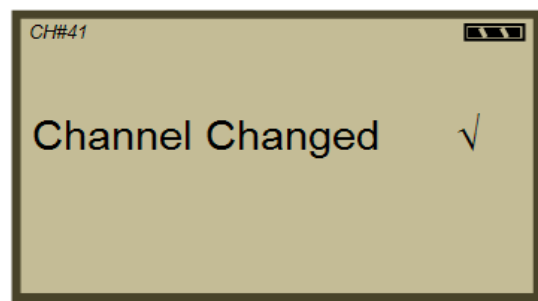
- 3 **MENU/OK** を押します。      現在のチャンネルと新しいチャンネルが表示されます。



4 **UP** を使用して 82 までのチャンネルを選択するか、**DOWN** を使用して 1 までのチャンネルを選択します。

5 目的のチャンネルを選択したら、**Menu/OK** を押します。

新しいチャンネルを確認するメッセージが表示されます。メインメニューに戻ります。




---

## RF レスポンス・カードのチャンネルの設定

### 操作手順

1 RF レスポンス・カードの **GO** を押します。

レスポンス・カードの LED が赤と緑に点滅します。

2 2桁のチャンネル番号を入力します。

3 **GO** を押します。

LED が緑に点滅し、チャンネルが正しく変更されたことを示します。

## ディスプレイ ユニット ID の設定

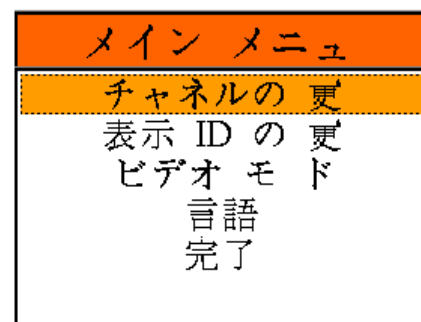
複数の ResponseCard Display を使用する場合 (一般的には、参加者が多く、全員に見えるようにするために複数の TV が必要な場合)、各 ResponseCard Display を個別のユニット ID に設定する必要があります。ResponseCard AnyWhere 1 台に対して最大 10 台の ResponseCard Display を使用できます。各 ResponseCard Display は、ResponseCard AnyWhere と同じチャンネルにプログラムする必要があります。チャンネルの設定方法については、11 ページの「無線周波数チャンネルの設定」を参照してください。

---

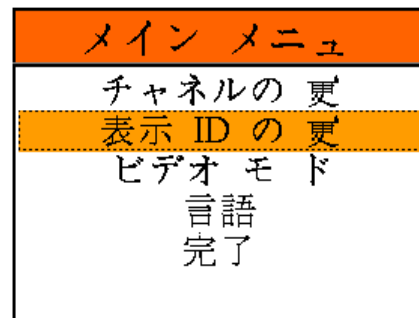
## ディスプレイ ユニットのユニット ID の設定

### 操作手順

- 1 ResponseCard Display の **Menu** を押します。      メインメニューが表示されます ...

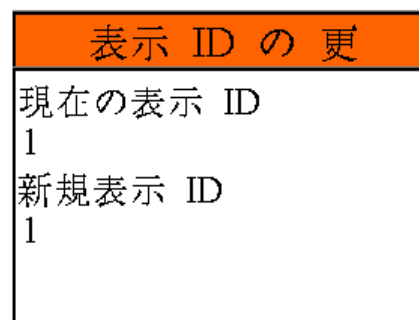


- 2 **DOWN** を使用して [Change Display ID] を強調表示します。

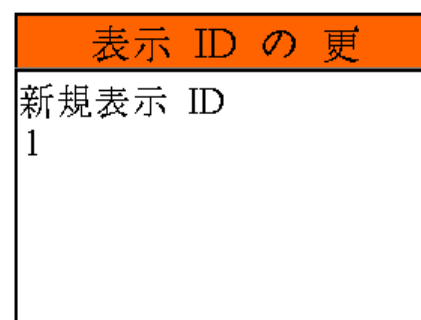


- 3 **Menu** を押します。

現在のディスプレイ ID と新しいディスプレイ ID が表示されます。



- 4 **UP** を使用して最大で 10 までの数を選択するか、または **DOWN** を使用して 1 までの数を選択します。
  
- 5 目的のディスプレイ ID を選択したら、**Menu** を押します。



**注記** 各 ResponseCard Display に設定できるディスプレイ ID は 1 つだけです。同時に複数の ResponseCard Display を使用する場合、ユニット ID は 1 から始まり、連続している必要があります。

## ResponseCard AnyWhere でのディスプレイ ユニットの数の設定

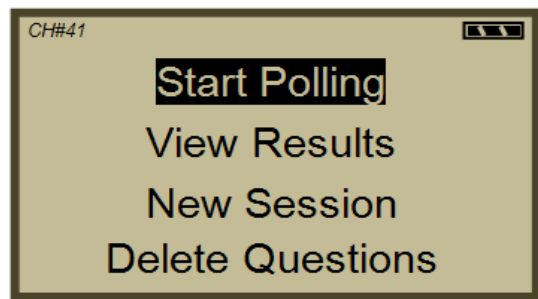
ResponseCard AnyWhere は、使用されている ResponseCard Display の数を認識しておく必要があります。デフォルトでは、ResponseCard AnyWhere は 1 つの ResponseCard Display に結果を送信するように設定されています。複数の ResponseCard Display が接続されている場合は、その数に応じて ResponseCard AnyWhere の [AW Display Units] 設定の数を調整する必要があります。

### 始める前に

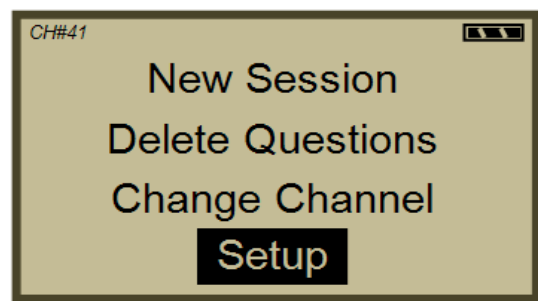
「D」isplay ボタンが「On」になっている必要があります。この方法の詳細については、8 ページの「**ResponseCard AnyWhere と ResponseCard Display の通信の有効化**」を参照してください。

操作手順

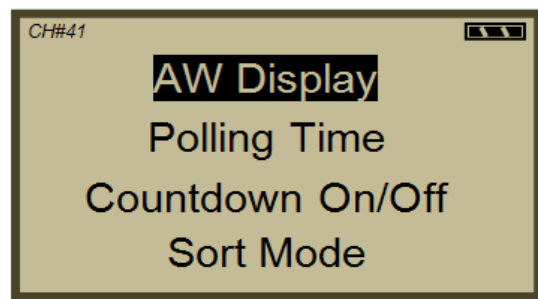
- 1 ResponseCard AnyWhere の **MENU/OK** を押します。      メインメニューが表示されます ...



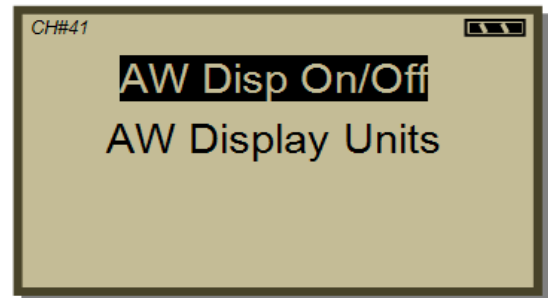
- 2 下矢印を使用して [Setup] を強調表示します。



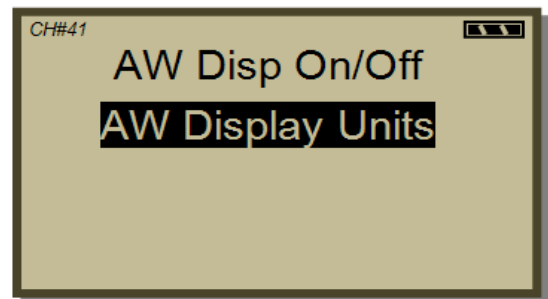
- 3 **MENU/OK** を押します。      [AW Display] が強調表示されます。



- 4 **MENU/OK** を押します。



- 5 下矢印を使用して [AW Display Units] を強調表示します。



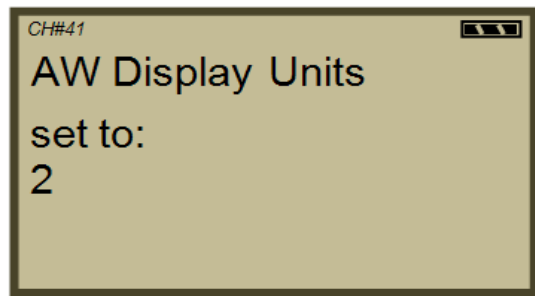
- 6 **MENU/OK** を押します。



7 **UP** または **DOWN** 矢印を使用して、ディスプレイユニットの数を選択します。

8 **MENU/OK** を押します。

選択内容を確認するメッセージが表示され、メインメニューに戻ります。



## 参加者のポーリング

手順を追った参加者のポーリング方法については、『ResponseCard AnyWhere ユーザーガイド』を参照してください。

『ResponseCard AnyWhere ユーザーガイド』は  
<http://www.turningtechnologies.com/groupresponsesystems/support/productguides/manuals.cfm> からダウンロードできます。

# タイマ

ResponseCard Display には 2 種類のタイマが備わっています。1 つはカウントダウン タイマで、参加者が投票の残り時間を判断できるようにするためのものです。もう 1 つのタイマは汎用タイマです。このタイマは最大 18 時間までカウントでき、TV またはプロジェクション システムに表示されます。

---

## カウントダウン タイマの使用

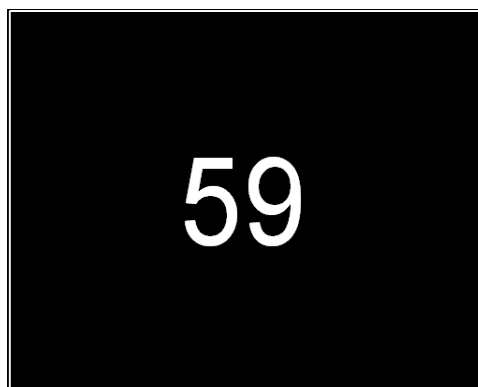
### 始める前に

ResponseCard Display にカウントダウン タイマを表示するには、ResponseCard AnyWhere でカウントダウン タイマを [ON] にする必要があります。カウントダウン タイマをオンにする手順を追った方法については、『ResponseCard AnyWhere ユーザー ガイド』を参照してください。

### 操作手順

- 1 ResponseCard AnyWhere で [Start Polling] が強調表示されている間に **MENU/OK** を押します。

ResponseCard AnyWhere にポーリング画面が表示され、ResponseCard Display を通じて TV またはプロジェクション システムにカウントダウン タイマが表示されます。

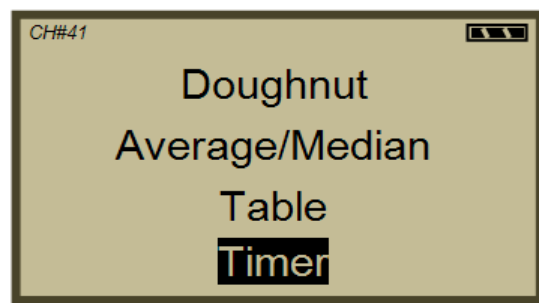


---

## 汎用タイマの使用

## 操作手順

- 1 ResponseCard AnyWhere の「D」を押します。
- 2 UP または DOWN 矢印を使用して [Timer] を強調表示します。

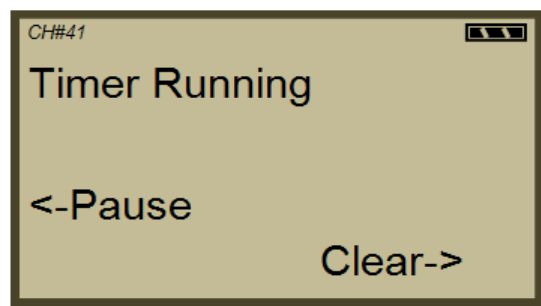


- 3 MENU/OK を押します。

TV またはプロジェクション システムにタイマが表示されます。



ResponseCard AnyWhere に次の画面が表示されます。



- 4 タイマを一時停止するには左矢印を、タイマをクリアまたは停止するには右矢印を押します。

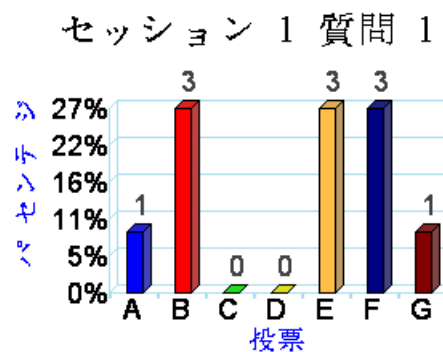
## 結果の表示

セットアッププロセスの手順がすべて完了し、参加者にポーリングを行ったら、すぐに結果を ResponseCard Display に送信できます。

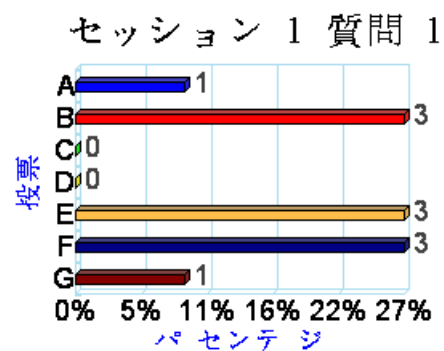
## ResponseCard Display への質問の結果の送信

デフォルトでは、「Display」ボタンを押すと、直前のポーリングの結果が送信されます。前にさかのぼって、以前にポーリングした質問の結果を表示することもできます。以下の6種類のグラフで結果を表示できます。

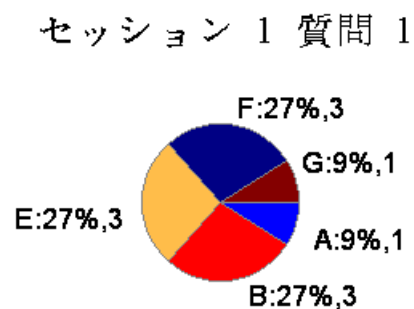
縦棒グラフ



横棒グラフ

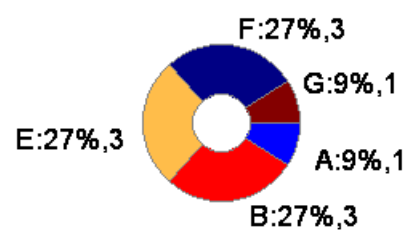


円グラフ

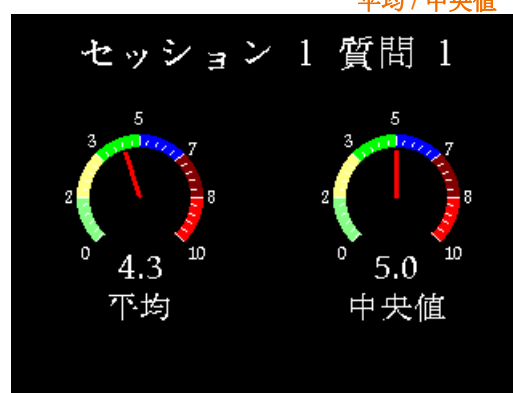


ドーナツ グラフ

セッション 1 質問 1



平均 / 中央値



テーブル

セッション 1 質問 1		
A	9%	1
B	27%	3
C	0%	0
D	0%	0
E	27%	3
F	27%	3
G	9%	1

---

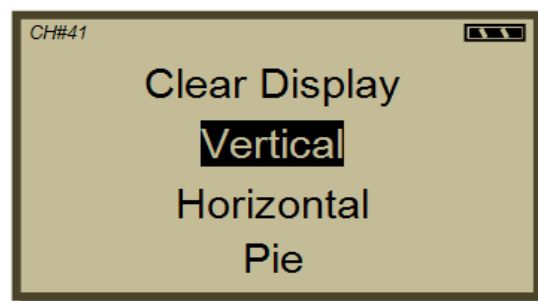
## 直前にポーリングした質問の表示

### 始める前に

「D」isplay ボタンが有効になっていて、参加者の結果が ResponseCard AnyWhere に格納されている必要があります。

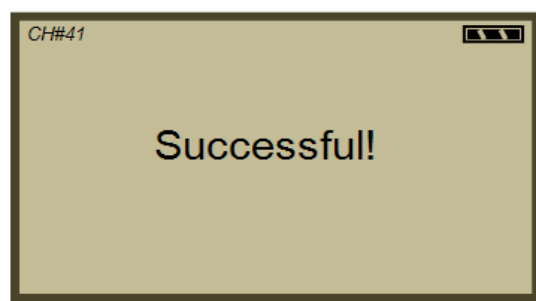
### 操作手順

- 1 ResponseCard AnyWhere の「D」を押します。
- 2 UP または DOWN 矢印を使用して、目的のグラフの種類を選択します。



- 3 **MENU/OK** を押します。

結果が ResponseCard Display に送信されたことを通知する確認メッセージが表示されます。



**注記** TV またはプロジェクション システムへの表示形式を変更するには、手順 1～3 を繰り返して、異なるグラフの種類を選択します。

---

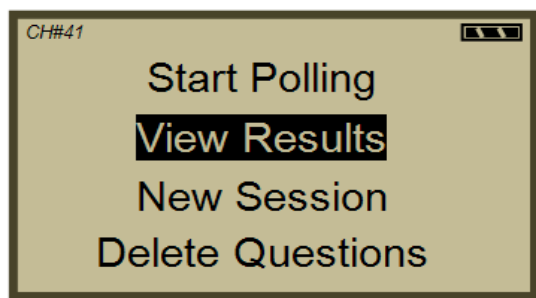
## 以前にポーリングした質問の結果の表示

### 始める前に

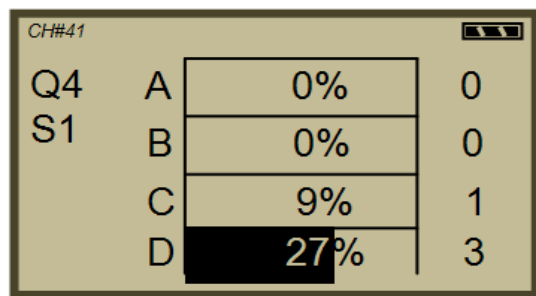
「D」isplay ボタンが有効になっていて、参加者の結果が ResponseCard AnyWhere に格納されている必要があります。

### 操作手順

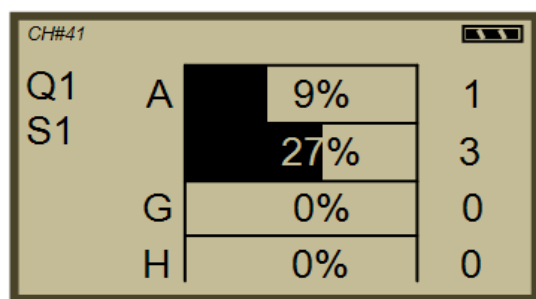
- 1 ResponseCard AnyWhere の **DOWN** 矢印を使用して、[View Results] を強調表示します。



- 2 **MENU/OK** を押します。



- 3 **LEFT** または **RIGHT** 矢印を使用して、表示する質問までスクロールします。



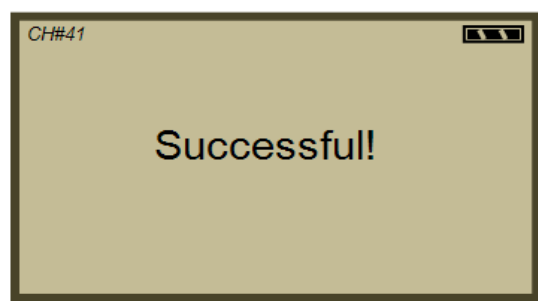
- 4 ResponseCard AnyWhere の「D」を押します。

- 5 **UP** または **DOWN** 矢印を使用して、目的のグラフの種類を選択します。



6 **MENU/OK** を押します。

結果が ResponseCard Display に送信されたことを通知する確認メッセージが表示されます。



**注記** 以前にポーリングしたその他の質問を表示するには、手順 1 ～ 6 を繰り返します。

**注記** ResponseCard AnyWhere の「D」を押して、画面から結果をクリアすることもできます。UP および DOWN 矢印を使用して [Clear Display] を選択し、MENU/OK を押します。

## 安全性

### FCC の声明

この製品は、FCC 規則のパート 15 に適合していることがテストおよび確認されています。運用は、以下の条件に従う必要があります。有害な干渉を生じさせてはなりません。また、希望しない動作を生じさせるような干渉であっても、干渉を受け入れられる必要があります。

この適合に責任を持つ当事者によって明示的に承認されたものでない変更や修正は、ユーザーがこの装置を運用する許可を無効にする場合があります。

### カナダの声明

このクラス B デジタル機器は、カナダの ICES-003 に適合しています。

*Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.*

このデバイスを PC に接続する際は、長さ 3m を超える USB ケーブルは使用しないでください。

ResponseCard AnyWhere Display を接続する際は、本ユニットに付属の電源以外は使用しないでください。これは、二重絶縁出力を備えた認定済みの 15W 以下の電源を使用することを前提に規制に準拠しているためです。